

平成28年度 事業報告書

★ 大阪工業技術専門学校

1. 学科別出願者、入学者数の状況

(平成29年5月1日現在)

学科名	区分	定員	出願者	入学者
建築学科		80名	115名(91)	107名(87)
建築設計学科		40名	30名(22)	29名(20)
設備環境デザイン学科		25名	13名(10)	12名(10)
インテリアデザイン学科		40名	23名(19)	22名(18)
大工技能学科		40名	52名(32)	51名(31)
ロボット・機械学科		40名	56名(45)	46名(41)
建築士専科		50名	46名(49)	31名(41)
Ⅱ部建築学科		80名	47名(59)	46名(57)
フレックス建築学科		40名	2名(5)	2名(5)
合 計		435名	384名(332)	346名(310)

() は昨年度数

2. 就職の状況

① I 部 卒業生

(平成29年3月31日現在)

学 科 名	平成26年度				平成27年度				平成28年度			
	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率
建築学科	62	24	23	96	74	41	41	100	57	34	29	85
建築設計学科	24	17	16	94	21	17	16	94	19	13	12	92
設備環境デザイン学科	11	9	9	100	12	10	10	100	11	8	8	100
大工技能学科	27	19	19	100	30	22	22	100	39	36	36	100
インテリアデザイン学科	14	13	12	92	18	17	14	82	20	14	13	92
ロボット・機械学科	28	28	25	89	35	35	34	97	38	33	28	84
建築士専科	43	42	39	93	45	44	44	100	41	41	39	95
合 計	209	152	143	94	235	186	181	97	225	179	165	92

※ 内定率は、内定者÷求職者で、単位は%です

3. 教育行事

- 1) 企業研修 夏季:全学科合計 93 名 (H27:94 名、H26:49 名、H25:36 名)
春季:全学科合計 55 名 (H27:67 名、H26:42 名、H25:27 名)
※ 夏季または春季休暇期間中の 1~2 週間で実施
- 2) 大阪市北区中津エリアを対象とした『まちへの提案』
⇒北区区長をお招きしてプレゼン発表 於:中津福祉会館 (H29/2/8)
- 3) 「うめきた・菜の花みつばちプロジェクト」への参加
⇒梅田北ヤードで開催されるプロジェクトに卒業制作作品を展示 (H29/2~3)
- 4) かわちながの国際民族音楽祭(舞台設営協力)、泉佐野丘陵緑地公園(秋のイベント参加)
- 5) OCT ロボット競技会の実施、及び全国専門学校ロボット競技会への参加
⇒第 25 回全国専門学校ロボット競技会において有線部門優勝 (H28/12/22)
- 6) 第 29 回 Honda エコノパワー燃費競技鈴鹿大会(エコラン)への参加
- 7) 保護者会の実施
※1 年生対象:入学式後と 12 月(計 2 回)、2 年生対象:5 月開催(1 回)

4. 教育改革等

「授業支援システム」は H28 年 3 月にシステムのバージョンアップを行い、動画配信に関して機能改善された。これを受け動画教材の充実に向けた取り組み強化を進めている。また 8 月に全館 Wifi 化されたことにより、特に夜間部においては試験的に授業時間内における演習解説の moodle 利用等、その活用を広げ始めた。

「企業研修」への参加学生数は夏季にはほぼ昨年並み、春季は少し減少の結果となった。受け入れ企業数に余裕を残している実情があるにも関わらず内定率も前年度を下回った。これは、就職に対する意識の欠如が第一に考えられる。そのためにも、企業研修による職業意識の強化、適性の確認等が効果的に進路意識向上を図る術であり、また、企業においては採用活動そのものに繋がっている場合もある。次年度に向けて、研修参加学生数増加への継続的な学生指導を強化していく。

全学科(建築士専科・フレックス建築学科を除く)に於いて「職業実践専門課程」に認定されており、実践的教育活動に向けたコンテンツ作成の検討を継続的に行っていく。また、真の意味での職業実践、産学接続を実現すべく各学科で企業、行政等と連携した教育行事を行った。(上記「3. 教育行事」参照)

「留学生対象日本語サポート授業(15 コマ)」「公務員・編入、進路講座(進路支援室主導)」は、一定の効果を挙げていると思われ、次年度も継続実施する。特に「進路基礎講座」をキャリアデザイン授業に組み入れ、社会人マナーやSPI対策を含め学生の進路意識向上や活発な進路活動を促しつつある。また、入学後の学力テスト結果から選抜された学力低位者に対して実施した「基礎学力養成講座(金曜日の午後)」の開講により学力の底上げを行ない、更には除中退減少にも多少の効果が図れた。

(1) 資格取得強化事業

新入生全員に対して実施している『ビジネス能力検定 3 級(文科省後援)』と建築士専科が 100% 合格を目標としている『2 級建築士試験(国家資格)』の合格率は下記の通りである。

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
ビジネス能力検定 3 級	95 名	77 名	81.1%	83.4%

建築士専科

2 級建築士試験					
	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	全国平均
学科試験 (1 次)	41 名	35 名	6 名	85.4%	42.3%
製図試験 (2 次)	35 名	27 名	8 名	77.1%	53.1%
総合	41 名	27 名	14 名	65.9%	25.4%

☆ エクステンション事業

資格取得支援事業として、主に卒業生及び在校生を対象に各種試験対策講座を実施した。

・ 講座事業

資格試験対策講座	受講期間	受講時間	受講者数
2 級建築士合格講座 (学科)	3 か月	42 時間	6 名
2 級建築士合格講座 (製図)	2 か月	102 時間	25 名
第 2 種電気工事士講座 (筆記&技能×2回)	4 か月	65 時間	28 名
合計			59 名

* 積水ハウス住宅大学校プロジェクト

1 年次正規版として、9/12~25 (内 8 日間) に入社 1 年目社員 114 名に研修 (講習) を実施した。

☆ 校友会の活動状況

1. 総会および懇親会の開催

平成 28 年 10 月 30 日 (日) ホテル日航奈良にて開催。講演会には母校教員赤代武志先生をお迎えし「ヴェネチアビエンナーレ建築展 日本館展示についての帰国報告」と題して、各国の展示作品が紹介され、先生の作品「馬木キャンプ、美井戸神社」についても語って頂きました。また奈良三重ブロック支部総会も同時開催しました。

2. 支部活動では、「OCT Walk in 五條新町」(大阪支部、奈良三重ブロック支部合同)「若人の広場&イチョ狩り」淡路島ツアー (II 部建築学科 OB 会) などを実施しました。

3. 留学生のための「入学歓迎会」「卒業祝賀会」を開催しました。

4. ヨーロッパ建築視察旅行 Part13 「ドイツバウハウスのルーツを探る&ロンシャン教会」を実施しました。

5. その他、例年通りドラゴンボート選手権大会に出場、資格取得者への報奨金制度、校友会ネットワーク推薦制度、在学生への助成などを実施しました。

★ 大阪リハビリテーション専門学校

1. 入学試験の状況

区分 学科名	入学定員	志願者	合格者	入学者
Ⅱ部理学療法学科（3年制）	40名	67名 (76)	43名 (45)	41名 (41)
Ⅱ部作業療法学科（3年制）	40名	36名 (48)	32名 (41)	31名 (40)

() は昨年度数

理学療法学科においては、志願者 10%減であったが昨年度並みの合格者を得ることが出来た。留年者も含めて1学年40名という指定養成規則の基準内に収めなければならない条件下での合否判定の難しさを伴う入試であった。

作業療法学科においては、志願者数において定員を下回るという残念な結果になった。このため無競争に近い状況となり、入学後の指導に相当の注力が必要となろう。

いずれにおいても、入学定員の確保と学生の質の担保というジレンマを克服するためには何よりも志願者増が焦眉の急である。

2. 国家試験の合格者数の状況

専任教員による国家試験対策授業、校内模擬試験、外部講師による直前対策セミナーを実施し、以下のとおり国家試験に合格した。

作業療法学科においては2年連続での100%達成となった。

(1) OCRの合格状況

	受験者数	合格者数	合格 率
理学療法士	24名	23名	95.8%
作業療法士	25名	25名	100.0%

(2) 全国の合格状況

	受験者数	合格者数	合格 率
理学療法士	13,719名	12,388名	90.3%
作業療法士	5,983名	5,007名	83.7%

3. 就職の状況

求人状況は理学療法士3,126件、作業療法士2,942件であった。

両学科ともに、専任教員が求人票に基づき学生指導を行うと共に、臨床現場におけるネットワークを最大限活用し就職支援を行った結果下記の通り成果を得た。

	卒業者数	国家試験 合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法学科	24	23	23	0
作業療法学科	25	25	23	0

4. 教育指導

両学科とも夜間学科として勤労学生等の学びやすい環境を整備する観点から、カリキュラム編成、時間割編成についての検討を重ねた。理学療法学科では検討の結果、平成28年度より18時開講とし、土曜日の夜間においても授業を行うことになった。

作業療法学科では、同様の理由から現在行っている時間選択制を続け、その功罪について検証を重ねている。

成績不良者に対して極め細やかな学習支援、個別指導、保護者との連携等の策を講じ、留年については退学を防ぐことに、注力した。

また、両学科ともに職業実践専門課程として教育課程編成会議を年2回ずつ開催し、外部の委員の意見を取り入れながら教育方法の改善等を行った。

5. 学習環境(施設)の整備について

平成27年度から2年計画で実施してきた教室の映像機器、音響機器の更新の完成をみた。加えて、2号館の実習室4部屋に新たに映像機器の整備を行った。

学生への個別指導等に対応するため、2号館2階と3階に面談室を新設した。これによりプライバシーが守られた中での個別面談が可能になった。また、入学志願者に対する個別相談にも利用している。

2号館では、主に実習室を中心にドア(引き戸)の改修工事を行った。

学生の健康管理としては、保健室に看護師を毎日常駐させ、応急手当、健康相談への対応を充実させた。

★ 大阪保健医療大学

1. 入学試験の状況

専攻名	区分	入学定員	志願者				入学者	
			AO	公募制推薦	一般 (センター併用)	社会人		合計
理学療法学専攻		70	63 (102)	68 (122)	64 (81)	0 (0)	195 (305)	71 (77)
作業療法学専攻		30	22 (29)	25 (30)	28 (30)	0 (1)	75 (90)	19 (32)
言語聴覚専攻科		40	—	—	—	—	54 (49)	33 (36)
保健医療学研究科		6	—	—	—	—	5 (7)	5 (7)
合計		146	85 (131)	93 (152)	92 (111)	0 (1)	329 (451)	128 (152)

(第2志望含む) () は昨年度数

リハビリテーション学科理学療法学専攻においては入学定員を確保できたものの、志願者数の大幅な減をみた。また、他においても、数の上では定員を確保できるだけの志願者を得たものの、結果的には定員確保に至らなかった。定員を確保しつつ学生の質を担保するためには何よりも志願者増が焦眉の急である。

特に言語聴覚専攻科においては、国家試験の顕著な成績をもってしてもこのような状態にあることの分析、対策が必要である。

2. 国家試験の合格者数の状況

学部では専任教員による国家試験対策授業、TAによる対策講座、校内模擬試験、外部講師による対策セミナー、各専任教員による個別指導等を実施するなど、両専攻共に組織的な取り組みと各教員におけるきめ細やかな対応を行った結果、リハビリテーション学科の第五期生の合格率は下記の通りの結果であった。残念ながら中期計画の「全国平均の国家試験合格率を上回る」という目標を達成できなかった。今後も引き続き中期計画目標の達成に向けて改善策を検討するが、その目標達成にとどまらず、受験生全員の合格を達成すべき抜本的な対策を検討していく必要がある。

言語聴覚専攻科においては、OCR時代より16年連続合格率第一位を達成した。

(1) OHSU の合格状況

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	56名	54名	96.4%
作業療法士	23名	19名	82.6%
言語聴覚士	18名	18名	100.0%

(2) 全国の合格状況

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	13,719名	12,388名	90.3%
作業療法士	5,983名	5,007名	83.7%
言語聴覚士	2,571名	1,951名	75.9%

3. 就職の状況

求人状況は理学療法士 2,932 件、作業療法士 2,868 件、言語聴覚士 1,503 件であった。各専攻、専攻科ともに、専任教員が求人票に基づき学生指導を行うと共に、臨床現場におけるネットワークを最大限活用し就職支援を行った結果下記の通り成果を得た。

	卒業生数	国家試験合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法学専攻	56 名	54 名	48	0
作業療法学専攻	23 名	19 名	17	1
言語聴覚専攻科	18 名	18 名	16	0

4. 教育指導

学部においては資格取得に向けてのモチベーションの維持、国家試験合格率の向上、退学率の抑制、等々を目指して「面倒見の良い大学」をモットーに下記の通り、教育システム上の様々な改善を加えた。

- ・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに則したカリキュラムの抜本的な改訂
- ・履修系統図の制定
- ・CAP 制の導入
- ・GPA 制を用いた退学勧告制度の制定
- ・入試における個人面接の多用と面接評価ポイントの改訂
- ・入学前教育における職業と学習内容の理解
- ・授業担当者に対する国家試験出題基準の周知

5. 施設・設備

平成 27 年度から 2 年計画で実施してきた教室の映像機器、音響機器の更新の完成をみた。加えて、2 号館の実習室 4 部屋に新たに映像機器の整備を行った。

1 号館の情報処理室の PC をすべて入れ替え、合わせて起動時には初期状態に戻る機能を充実させた。学生への個別指導等に対応するため、2 号館 2 階と 3 階に面談室を新設した。これによりプライバシーが守られた中での個別面談が可能になった。また、入学志願者に対する個別相談にも利用している。

2 号館では、主に実習室を中心にドア（引き戸）の改修工事を行った。

学生の健康管理としては、保健室に看護師を毎日常駐させ、応急手当、健康相談への対応を充実させた。

6. 自己点検・評価

平成 27 年度に日本高等教育評価機構の大学認証評価を受審し、「適合」の認定を受けたが、その際に付された改善意見 2 点の内 1 点とその他の意見への対応策を講じた。

☆ 福田学園校友会の活動状況

1. 理事会及び部会の開催

①理事会

理事会は6回開催され、研修活動、在校生支援活動、総会準備、予算案等について積極的な議論がなされた。

②部会

P T部会では研修会を1回、O T部会では研修会を6回、S T部会では研修会を2回実施した。

2. 福田学園校友会研修会実施について

次のとおり平成28年度研修会〔対象：校友会正・準会員〕を実施した。

日 時：平成28年5月15日

講 師： 山田 規畝子先生（医師）

テーマ：「私と高次能機能障害～リハビリテーションを受ける立場から～」

著書：「壊れた脳 生存する知」

3. 在校生・学校支援について

- ・在校生支援として、図書室に30万円分の図書を寄贈した。
- ・熊本地震の義援金（熊本県PT会、OT会、ST会にそれぞれ10万円）を送る。
- ・会員支援として、カンボジアスタディツアーに助成金を出した。
- ・学校式典、入試説明会、1年生向け体験説明授業等に参加した。
- ・日本国際ドラゴンボート選手権大会にO C T校友会と合同で参加した。

★ 福田学園

1. 理事、監事、評議員について

理事	選出母体	
1号	設置する学校の長 (1名)	福田 益和
2号	評議員会 (2名)	宮崎 安弘 佐藤 誠
3号	学識経験者 (4名)	山本 一仁 渡邊眞一郎 福田 眞 清野 佳紀
監事		水島 洋 村岡 かほる

評議員	選出母体	
1号	学園職員 (6～8名)	福田 益和 佐藤 誠 伊東 和幸 石倉 隆 井上 悟 越智 久雄 宗林 功
2号	卒業生 (3～4名)	今西 永兒 高山 厚 井口 知也
3号	学識経験者 (6～8名)	宮崎 安弘 山本 一仁 福田 祐子 福田 眞 岡山 保美 高橋 弘樹 増原 建作 清野 佳紀

2. 教職員の状況

		29年5月1日現在	28年5月1日現在	増 減
OCT教員	専任教員	15	15	0
	非常勤講師	66	64	+2
	(小計)	81	79	+2
OCR教員	専任教員	13	14	-1
	非常勤講師	74	73	+1
	(小計)	87	87	0
OHSU教員	専任教員	31	31	0
	非常勤講師	153	133	+20
	(小計)	184	164	+20
事務局	専任事務職員	24	26	-2
	業務委託派遣事務職員	4	4	0
	(小計)	28	30	-2
合計	専任教職員	83	86	-3
	講師・派遣	297	274	+23
	(合計)	380	360	+20

3. 自己点検評価、学校関係者評価、第三者機関評価及び評価結果公表について

OHSUにおいては、平成27年度に「日本高等教育評価機構」による大学認証評価（第三者評価）を受診し、無事に機構が定める大学評価基準に適合しているとの認定を受けることができた。ただ、いくつかの項目で、「改善を要する点」、「参考意見」が付けられているため、改善報告書を提出しなければならない。

OCT、OCRにおいては、今年度においても、職業実践専門課程の認定（申請条件）の中で、文部科学省が策定したガイドラインに基づき、学内における自己点検・自己評価、また、外部関係者を委員とした学校関係者評価を行うとともに、その結果をOCT、OCRホームページ上に公開した。OCRについては、OT学科の職業実践専門課程申請を行い認定された。また、両校共、今後、第三者評価機関による評価の実施も検討したい。

4. 「教育の質の確保と向上」に向けた3カ年計画の策定について

経済状況の変化やグローバル化、就労に対する価値観の多様化、少子化等、学校を取り巻く環境は、日々が大きく変化している。この様な大転換期においては、安定した学生数の確保のため、更なる信頼性の向上が求められ、特に教育の質の確保と向上に向けた取組みは不可欠となっている。

このため、引き続き平成28年度もOHSU、OCT、OCRにおいては、教育の質の確保と向上に対する3カ年計画（「中期展望」、「期間中の取組み」）を策定の上、目標設定等具体的に取り組んだ。特に3校とも、「教育機材、機器備品の購入、校舎、建物附属設備の改修」については、3ヶ年計画の項目に必ず盛り込むこととした。

5. 経費削減対策について

ここ数年で、学園のサーバーのクラウド化及びネット回線・光電話の契約先の変更、学園全体の複合機、コピー機、プリンターの全台入替えによる経費削減、また、1、2号館の空調機の更新、及びデマンドコントローラー設置及び電力使用量の監視測定による電気料金削減を行ってきた。今年度は、6号館の空調機（設置から19年が経過）の更新し、一層の電気料金の削減を行った。また、大幅な電気料金の削減が期待できる照明機器のLED化を補助金による対応をはじめ、次年度以降対応実施できるよう検討を進めた。

6. 学園のシステム体制の見直しについて

学園のネット環境他システム面を個人に依拠した体制から、業者委託へと変更し、一層の安全を確保した上で見直しを図った。

7. 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の指定について

厚生労働省が主幹となり、非正規雇用労働者である若者等がキャリアアップ・キャリアチェンジして安定的に働くことができるよう教育訓練給付が拡充された『専門実践教育訓練』が創設され、OCTでは、平成26年度に指定を受けた建築学科Ⅱ部に加え、平成27年度に建築設計学科・

大工技能学科で指定を受けた。OCRについては、平成27年度PT（3年制）学科、平成28年度OT（3年制）学科において指定を受けた。また、OHSUについては、平成27年度ST専攻科で指定を受けることができた。

8. 文部科学省の認定制度「職業実践力育成プログラム（BP）」の認定について

文部科学省の認定制度である、高等教育機関におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大及び大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムである「職業実践力育成プログラム（BP）」に、大阪保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻の脳神経疾患身体障害支援学領域が認定された。

9. 文部科学省委託事業について

OCRにおいては、平成26年度に文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業（「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進「理学・作業療法の職業実践専門課程の認定要件・第三者評価等に係る先進的取組の推進）」を受託した。平成27年度、28年度においても継続して受託し、成果報告会を実施するとともに、大阪フォーラムでも事業報告を行った。

10. ネット出願の導入について

今年度、設立された「キャリア教育共済協同組合」においてネット出願事業の先行的取組みをOCTにおいて活用し、41名のネット出願があった。

11. SPマークの申請について

「(一) 職業教育・キャリア教育財団」が認証団体となる「SPマーク」について、実証校として依頼されたOCTにおいて、外部評価（第三者評価）の第一歩として、今年度、認証された。

参考資料

★大阪工業技術専門学校

<学科別学生数の状況>

(平成29年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	在籍数	増減	定員	在籍率(%)
建築学科	2年	108	75	183	+35	160	114%
建築設計学科	2年	29	14	43	0	80	54%
設備環境デザイン学科	2年	12	8	20	-4	50	40%
大工技能学科	2年	51	25	76	+4	80	95%
インテリアデザイン学科	2年	23	17	40	-2	80	50%
ポット・機械学科	2年	47	38	85	+3	80	106%
建築士専科	1年	31		31	-10	50	62%
I部小計		301	177	478	+26	580	82%
増減		+46	-20	+26			
建築学科II部	2年	52	54	106	0	160	66%
ルックス建築学科	2年	2	9	11	+5	80	14%
II部小計		54	63	117	+5	240	49%
増減		-10	+15	+5			
合計		355	240	595	+31	820	73%
増減		+36	-5	+31			

★大阪リハビリテーション専門学校

<学科別学生数の状況>

(平成29年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法学科	3年	43	40	30	—	113	120	94.2
作業療法学科	3年	32	38	26	—	96	120	80.0
合計		75	78	56	—	209	240	87.1

★大阪保健医療大学

<学科—専攻、専攻科別学生数の状況>

(平成29年5月1日現在)

専攻名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法専攻	4年	74	72	61	53	260	280	92.9
作業療法専攻	4年	19	34	37	28	118	120	98.3
学部小計		93	106	98	81	378	400	94.5
保健医療学研究科	2年	5	9	—	—	14	12	116.7
言語聴覚専攻科	2年	34	37	—	—	71	80	88.8
合計		132	152	98	81	463	492	94.1

